

竜の子奨学生

第25号
Mar.2020

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



第38回交流会 ディズニーランドにて



SPECIAL REPORT I
(友達が作ったLOLテーマ
のケーキ)



第1回編集会議後にて
(サムギョブサル)

CONTENTS

- ② 卒業生の「現在の夢」
- ③ 第38回交流会レポート
- ⑤ SPECIAL REPORT I
- ⑦ SPECIAL REPORT II
- ⑨ 竜の子近況報告
- ⑬ 竜の子 (OB・OG) 近況報告
- ⑭ SPECIAL REPORT III
- ⑮ 編集後記



公益財団法人 竜の子財団

Tatsunoko Foundation



現在の夢



シュンシュ
朱 震

1985年 中国陕西省西安市
生まれ
2008年 中国同済大学情報
学部卒業、学位取得
2010年 日本留学
2012年～2014年 竜の子
財団在籍
2014年 京都大学大学院修
士課程修了、修士学位取得
現在 情報・通信業の日本企
業でプロダクトマネージャーを
従事

「夢」を意識するようになったのは、思ったより遅かった。

何もかも新鮮に見えた幼い頃、試験勉強で手一杯の十代、大学で短い自由を謳歌し早々社会人になった二十代前半。特に不自由なく、常に何か一つのこと集中して、良くも悪くも「夢」について真剣に考えたことはなかった。

そして、二十代半ば、初めて海外に出て、やること、やりたいこと、やらないといけなことがいっぱいできて、それらを天秤にかけて選択することを強いられ、有限な時間をいかに使うか行動指針を考えるようになった。

シェイクスピアはこう言った。「人生は選択の連続である」。それなら、人生において数多くの選択をする際、その先に見据えるものは、私は「夢」だと思う。

中国にいた頃から日本の教育と企業文化への関心があり、日本で良い経験を積んで、いつか母国に持ち帰り、国の根本である教育の底上げと、より良いものが作れるような企業改革がしたいと思っていた。

それを実現するため、卒業してからの就職先は日本のものづくりの会社を選び、企業文化を学びつつ、いずれやって来るIT技術による教育改革に参入し、その成果で国境を超えると心に決めた。しかし、実際に働いてみると、インターネット産業で必須なエンジニアリソースは日本よりむしろ中国のほうが強いケースもあると気づき、日本から中国への一方通行ではなく、二つの国の強みを合わせてより良いものを作ることを目指し、日中企業が提携する仕事に携わるようになった。

日本での生活が長くなると、当初の印象とは異なり、例え先進国でも、人口減少やワーキングプア、教育格差など、深刻な社会問題が存在していることがわかった。これらの社会問題を自分が今までやってきたことと照らし合わせると、先進国の技術や経験を他国と共有することも、教育に対する問題意識も、国横断のパートナーシップも、その共通の鍵は「社会問題の解決」であることにやっと気づき、そこに自分の夢があるとわかった。

この夢は、スケールが大きい分、できるアプローチもまた多い。今の仕事では、環境に優しいライフスタイルの普及事業に携わり、プライベートでは、難民問題を始めとした社会課題を解決するボランティア組織にも参加している。

先進国の日本で発生している社会問題は、いずれ母国を含めた様々な国でも見られるようになるだろう。今は良い解決策を探ることに注力し、将来、その方法と経験を必要の人々により早く安く提供できるよう、忙しく充実した毎日を楽しんでいる。

ご寄付いただいた皆さまへ

竜の子財団の奨学生を代表して、寄付して下さった皆様へ心から感謝の言葉を申し上げます。私たちは、皆それぞれ夢を持って日本へ留学し、大学へ入りました。しかし、日々の研究に追われながら留学にかかる費用を自らの力だけで調達することは、非常に困難です。現に、経済状況により途中で夢を諦めるしかなかった人もたくさんいることでしょう。私たちは、非常に恵まれた環境で勉強させていただいていることを常に心に刻み、感謝の心を忘れずに過ごしております。私たちにできる恩返しといえば、いかなる困難にも屈せず夢を叶えること、そして、日本或いは母国でより良い社会づくりに貢献することではないかと存じます。これからも頑張って参りますので温かく見守っていただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(令和元年度竜の子財団奨学生 一橋大学法科大学院 金 宰煜)

第38回交流会レポート

第38回目の交流会は2019年8月3日から4日まで2日間、ディズニーランドとディズニーシーにて行われました。1日目はディズニーランドを、2日目はディズニーシーを満喫しました。アトラクションの待ち時間が長かったけれど、竜の子の奨学生同士でたくさんのお話をすることができて、互いのことを知り関係を深めることができました。

● 1日目 ●

今年の交流会案内メールには「野外活動が多いので歩きやすい服装で来ること」とあるのみで、行き先や詳しい内容は一切書いてありませんでした。猛暑日が続いていたこともあり、楽しみと不安が半分ずつ混じった気持ちで集合場所の東京駅に向かいました。

今回参加する15人の竜の子財団の奨学生が全員集まると、交流会の詳細についての発表が始まりました。ドキドキしながら耳を傾けていると、なんと場所は、「1日目 ディズニーランド」「2日目 ディズニーシー」とのこと。事前情報からどこかの山へハイキングにもで行くのかなと予想していただけに、ディズニーに行くという瞬間、皆喜びで跳び上がりました。竜の子奨学生15人のほとんどが初ディズニーだったのです。舞浜駅に着くと、まず今回宿泊するホテルオークラ東京ベイに荷物を預け、イクスピアリ内にあるレストラン“レインフォレストカフェ・トーキョー”で昼食を食べました。レストラン内はディズニー仕様になっており、既にいかにもディズニーらしい雰囲気が出ていました。入園してからは5～6人で1つの班になって、2日間一緒に行動することになりました。

日本では、地方から中高生が修学旅行でディズニーに来たり、大学生になっても『制服ディズニー』のように友達

同士で服装を揃えて来たりすることが多く、日本で学生生活を送るうえでディズニーは特別な意味をもった場所だと思います。服を揃えてディズニーを満喫している人々を見ると、ディズニーに来たという実感が湧いてきました。そこで、私たちも負けてはいられないと思い、ショップに行きディズニーのキャラクターの耳を買ってみんなで着けてディズニーランドを楽しみました。

その後、17時からみんなで夕食を食べることになっていたため一旦ホテルに帰りました。他の班の奨学生たちも皆キャラクターの耳を着けていて、「考えていることは同じなんだな」と思い、面白かったです。良い仲間と囲まれて美味しい食事をいただき、幸せな時間を過ごしました。



秋元理事長よりご挨拶



昼食の時の集合写真

夕食後、ディズニーランドに再入場することになりました。夜のディズニーランドは昼間とはまた違った雰囲気でした。昼間乗れなかったビッグ・サンダーマウンテンに乗ったら、ちょうど夜のパレードショーが始まりました。夏のパレードショーは、ディズニーランドのお城の方から打ち上げられた水がミスト状になって観客に届くので、暑さを忘れて気持ち良く鑑賞することができます。

ショーが終わるとディズニーランドも閉園の時間になりますが、私たちの1日目はまだまだ終わりません。ホテ



前回編集委員よりご報告



みんなで耳を揃えました

ルへ帰ってシャワーを浴び、1つの部屋に集まって交流をさらに深めました。今後の進路や不安について相談し合い、過去に同じ悩みを抱えていた先輩方からアドバイスを

いただくことができました。心強い味方がいるので、これからの留学生活も心配ありません。

● 2日目 ●

2日目は朝6時に起きて、ホテルの朝食を食べました。ホテルオークラ東京ベイはシェフがその場で作ってくれるオムレツが有名で、早朝なのに行列ができていました。私たちも並んで食べましたが、想像以上に美味しくて大満足でした。

その後ディズニーシーへ向かい、8時の開園と同時に入園しました。

トラクションの待ち時間が会話の場となり、たくさんのお話をすることができました。国籍、文化、宗教など様々なバックグラウンドをもつ竜の子奨学生たちが日本語でコミュニケーションをしていると、不思議な気分になると同時に視野が広がる気がします。今回の交流会を通じて留学時代の大切な思い出を作ることができましたし、竜の子奨学生同士の仲も深まったと思います。とても幸せな交流会でした。



好きな柄のチケットを選びました

班ごとにディズニーシーの専用アプリを使って、限られた時間の中でディズニーシーを一番満喫できるプランを立てました。いくつかのアトラクションを犠牲にして新しいアトラクションに時間を費やす班もあれば、できるだけ数をこなしていく班もあり、班の性格が出てきます。ア



ミッキーのアイスを食べるサイさん

(担当：令和元年度竜の子財団奨学生 一橋大学法科大学院 金 宰煜)

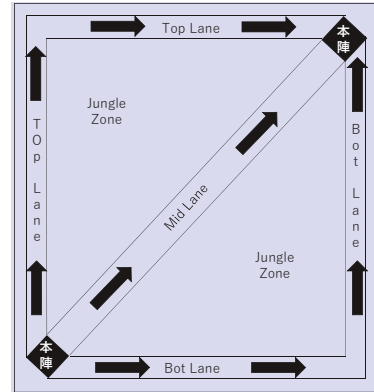
SPECIAL REPORT I

● 中国で最も流行っているEスポーツについて ●

(1) 2019 League of Legends World Championship

2019年11月10日、多くの人のごく普通の日曜日を過ごしていたこの日、私を含めた4,400万人の視聴者は、2019 League of Legends World Championshipの決勝戦をオンラインストリーミングで見っていました。League of Legendsとは、MOBA（マルチ・プレイヤー・オンライン・バトル・アリーナ）系オンライン・ゲームのひとつであり、よくLOLと略されます。

LOLのルールについてですが、10人のプレイヤーが、2チームに分けられて、キャラクターを操作して、図3で示されているアリーナで5対5の試合を行います。マップ左から上に伸びていく「Top」レーンと中心部の「Mid」レーンをそれぞれ1人が担当し、マップ下から始まる「Bot」レーンを2人が担当します。各レーンに、一定間隔で、敵の本陣に向かって進むCPUミニオンが出現しま



(出所：筆者作成)

図3 アリーナマップのイメージ

す。敵のミニオンを倒すことによって、レベルアップのための経験値やアイテムを購入するゴールドを獲得できます。また、真ん中の「Jungle Zone」で、中立のモンスターを倒して、経験値やゴールドを獲得する役割を1人が担当します。敵のキャラクターを倒して、本陣を破壊することで、勝利となります。

LOL World Championshipとは、LOLの世界最強チームの決定戦であり、各地域の最強チームしか参加できません。2019 World Championshipの決勝戦では、FunPlus Phoenixという中国メインランドからのチームが優勝しました。これによって、中国メインランドからのチームは、2連覇を達成しました。

(2) なぜLOLが中国で流行っていますか？

2019年、すでにWorld Championshipは9年目を迎え、2019 LOL World ChampionshipはS9と呼ばれています。

実は、S3からS7までの王者は、すべて韓国からのチー



図表出所：2017年に現場で観戦した友達の写真
図1 LOLの試合のチケット



図表出所：2017年に現場で観戦した友達の写真
図2 LOLの試合会場

表1 LOL World Championshipの歴代王者

		チーム名	国・地域
2011年	S1	Fnatic	欧州
2012年	S2	Taipei Assassins	台湾
2013年	S3	SK Telecom T1	韓国
2014年	S4	Samsung White	韓国
2015年	S5	SK Telecom T1	韓国
2016年	S6	SK Telecom T1	韓国
2017年	S7	Samsung Galaxy	韓国
2018年	S8	Invictus Gaming	中国メインランド
2019年	S9	FunPlus Phoenix	中国メインランド

図表出所：Riot公式統計資料より筆者作成

ムであり、2019 World Championshipで優勝したFunPlus Phoenixチームは、中国メインランドからのチームといっても、試合に出場した5人の選手の中で、2人が韓国籍でした。去年優勝したInvictus Gamingというチームも、まったく同様であり、5人の選手の中で、2人が韓国籍でした。韓国の選手達はとても活躍しています。では、なぜ韓国の選手達がわざわざ中国メインランドのチームでプレーしているのでしょうか。よく考えられる理由として、中国メインランドのリーグや、リーグに所属しているクラブは、韓国のEスポーツ産業に負けないような管理体制が整備されていることがあげられます。

韓国でEスポーツがかなり流行している理由として、政府主導で成立したKeSPA（Korea e-Sports Association）による積極的な運営が考えられます。KeSPAは、試合の運営だけではなく、選手の発言や選手賃金の決定などのクラブの運営についても規律付けており、このKeSPAの強い影響力が、Eスポーツの試合を国民的なイベントに発展させました。

中国の場合、LOLを開発して、World Championshipの試合を運営しているRiot社は、2015年から中国のIT大手であるTencent社の完全子会社となりました。中国メインランドでは、Tencent社が提供するSNSサービスのアカウントでLOLをプレイできますし、それ以外にも、Tencent社のプラットフォームでLOLのプロモーション活動も行っています。その結果、LOLをプレイしている人の数がかなり多くなり、その試合を見る人も当然増えます。

世界的に、中国メインランドのアクティブユーザー数が最も多いと周知されていますが、何等かの理由で公式的な数値が公開されていません。噂ではありますが、3,000～5,000万人ほどと言われています。2位の韓国における、アクティブユーザー数は365万人です。

表2 各国・地域におけるユーザー数

韓国	3,658,112	トルコ	986,838
西欧	3,178,664	台湾・香港・マカオ	767,495
ベトナム	2,863,775	ロシア	278,782
東・北欧	1,906,551	オセアニア	236,787
北米	1,884,164	日本	146,950
ブラジル	1,453,573	シンガポール	125,384
フィリピン	1,333,914	タイ	111,938

図表出所：Riot公式統計資料2017より筆者作成

(3) ゲーム？スポーツ？

今回のSPレポートのタイトルを決める際に、「中国で流行っているEスポーツ」にするのか、あるいは、「中国で流行っているゲーム」にするのかについて、結構悩みまし

た。ここで、その違いについて私見を簡単に述べさせていただきます。

ゲームと言えば、エンターテインメントであり、1人あるいは友達と一緒に、その楽しさを体験できる時間を過ごせます。私もかなり前のことですが、友人と一緒に徹夜でLOLをやってきました。しかし、プロのEスポーツ選手は、ゲームを楽しめていないかもしれません。LOL選手の年齢は大体18から22の間であり、平均選手寿命は僅か4年間です。彼らにとって、ゲームはもはや試合であり、他の選手に勝って、視聴者に白熱する試合を見せることが仕事となります。そのために、4年間、おそらく毎日のトレーニングを通じて、自分の限界に挑戦し続けて、スキルを高めなければいけません。

表3 Eスポーツ選手の一日

13時	集合
13時～14時	Solo戦練習による個人練習
14時～17時	団体戦練習
17時～19時	夕飯＋休憩
19時～23時	他プロチームと団体戦練習
23時～4時	Solo戦練習による個人練習

図表出所：CNN記事より筆者作成

それに加えて、試合だけではなく、SNSがかなり発展している現代社会では、メディアやファンと付き合う能力も必要となります。また、Eスポーツの産業化によって、選手だけではなく、監督、マネージャー、そして、試合のストリーミングなどの運営にも数多くの仕事が発生し、人に職業を提供しています。

これらの点から見れば、Eスポーツ選手は伝統的なスポーツ選手と全然変わりなく、Eスポーツの業界で仕事している人達も伝統的なスポーツ業界で仕事している人と変わらないと考えられます。



図表出所：試合会場の外で友達が撮った写真

図4 記念品を展示するストア

(担当：平成30年度竜の子奨学生 早稲田大学 金 奕群)

SPECIAL REPORT II

● 韓国のお正月 ●

竜の子財団の皆さん、「セヘボグマニバッウセヨ」！直訳すると「新年の福をたくさん受けて下さい」という意味の韓国の年礼で、日本の「あけましておめでとうございます」に相当する表現です。日本と異なるのは、新年だけではなく、年末から使う表現であるという点です。つまり韓国の人は年末に、「良いお年を、そしてあけましておめでとうございます」と挨拶するということです。それでは韓国のお正月を紹介したいと思います。

韓国では、西暦の正月と旧暦の正月の2つのお正月があります。そのため「あけましておめでとうございます」を2回言うことになります。

西暦の正月には、12月31日の年越しの際に、ソウル市内のボシंगाッ（普信閣）で行われる「除夜の鐘」の打の音を聞きます。この時、鐘を合計33回鳴らしますが、これは仏教に由来するもので、国の太平と国民の無病長寿、平安を祈願するという意味であります。その他にも、日本と同じく初日の出を見に行く人も多いです。

旧暦の正月は一般的に『ソルラル』と呼ぶ祝祭日として楽しんでいます。2020年旧正月連休は24、25、26日の3日間でしたが、ソルラルはその25日になります。移動と準備、休憩のため、前後に2日間の休みがあります。中国より休みは短いですが、この時期に多くの人々が移動をします。帰省する人も多く、早くから列車のチケット予約期間が設けられますが、それでもチケットを取れなくて帰省できない人もいます。家族みんなで食べる正月料理が多いので、ソルラル前日から帰って準備をするのです。

ソルラル当日は、朝早くおきて、体を綺麗にして、「ハ

ンボク（韓服）」を着て宗家に集まり、「チャレ」と呼ばれる先祖への礼を挙げる儀式を行います。日本では着物を着るように、韓国ではお正月に伝統衣装であるハンボクを着ますが、最近では、ハンボクの代わりにスーツやおしゃれを着る人が多くなり、ハンボクを着る人は年々少なくなっています。チャレはお正月だけでなく他の祝日にも行う風習です。儀式を通じて、亡くなった先祖にも忘れずに挨拶をします。昔の人たちは、家柄と子孫の繁栄が先祖をどのように祭るかによって左右されると考えていました。そのため、先祖に供える食事を過度に準備するなど、連休でも休めず、「祝日症候群」という言葉までできるほどになりましたが、最近のチャレは、必要以上にお供えをしないように簡略化されています。また、日本の初詣が神様に安泰を祈るのに対し、チャレでは神様ではなく、先祖に挨拶し安泰を祈るという違いがあります。

チャレが終わると、一番年寄りから順に礼を述べて新年のあいさつを伝えますが、これを「セベ」といいます。セベは目上の人を敬い、礼儀を大切にす儒教の道徳の影響を受けています。セベを受けた側は、成人にはお酒や食べ物、子供たちにはお年玉を与えて、お互い挨拶と励ましの言葉を取り交わします。チャレとセベをした後は家族皆で集まって食事をします。

ソルラルを代表する料理は『トックク』です。トッククは、肉スープに米で作った薄切り餅、牛肉、卵、のりなどの薬味を入れて食べる伝統食です。水餃子やネギを入れる人もいます。ソルラルには必ずトッククを食べるので、韓国では、このトッククを食べると1歳を取ると言われて



祖父母のチャレ祭壇の様子



ソルラルの飲食トックク



家庭料理のチヂミ



チャレの後、食事で食べたご飯

います。子供の頃は早く年を取りたくて、2杯食べて2歳年を取ったと冗談を交わした覚えがあります。トッククと似ている日本料理にお雑煮があります。お雑煮のお餅はやわらかくて伸びますが、トッククのお餅は伸びず、しこしこした食感です。トッククはお正月でなくてもお店でいつでも食べられる料理なので、機会があったら是非一度召しあがってみて下さい。おいしいですよ！トックク以外にもキムチ、ナムル、ジョン（＝チヂミ、溶き卵をつけた食材や様々な食材が入ったどろどろした練り物を油で焼いた料理）、串焼き、チャプチェ、魚、ゆで卵などを食べます。

墓参りは先祖のお墓に行って挨拶をし、墓の周りが荒れ

てないかを確認する儀式です。生存している家族には新年の挨拶ができますが、既に亡くなった先祖にはお墓を訪れ香を焚いて挨拶をします。私も今年はちょうど帰国しましたので祖父が安置されている国立ソウル顕忠院に行ってお礼を述べて来ました。ご先祖様にお礼を述べた後は、親戚と談笑を交わして楽しい一時を過ごすことができました。

韓国の新年の風習と皆さんの国の風習とは似ている点がありましたか？日本と比較すると、韓国では先祖中心にお正月を過ごすことが特徴であると感じました。皆さんもお正月には、家族と大切な思い出を作れるよう、楽しい時間をお過ごし下さい。



祖父母が安置されている国立ソウル顕忠院の中にあるビル



ビルの入り口にある香炉と参詣所

(担当：平成29年度竜の子奨学生 東京工業大学 朴 胤植)

竜の子近況報告

「PhDの真実」



研究室の忘年会時に撮影

チョウ セイヨウ

張 政陽 (中国)

東北大学大学院 環境科学専攻
先進社会環境学専攻 博士3年

後30日頑張れば、人生の大きな山を乗り越えられる。そんな心境で、ひたすら博士論文を作成しています。「哲学博士」としてよく知られているPhDは、実は「Permanent Head Damage (頭の永久損傷)」と解釈されています。その勇気と覚悟がなければ、博士を取ることはお勧めしません。一方、3年間で学位が取れば、スーパーマンほどではないまでも様々な能力とスキルが向上します。また、運が良ければ、希望に満ち溢れる未来も開けます。博士を目指している仲間の皆さん、力を尽くして自己ベストを出しましょう。

さて、最近楽しかったことを少し報告します。先日、研究室が所在するフロアの学生と先生全員による、国際バージョンの「仙台芋煮会」が開催されました。自分は肉焼き担当で、しっかりと料理の腕を振るいました。「美味しい」という一言がもたらすパワーは思いがけず大きかったです。些細なことの積み重ねで良いチームが生まれるとつくづく実感しました。感謝の気持ちを抱いて、ポジティブに2020年を過ごしましょう！



法律事務所のインターンシップ終了後同期達との記念撮影

キム ジェウク

金 宰煜 (韓国)

一橋大学大学院 法学研究科
法学専攻 修士2年

「明けましておめでとうございます」

2019年は常に何かの試験に追われる1年でしたが、合間を縫って旅行や法律事務所のインターンシッププログラムに参加するなど、充実した時間を過ごすことができました。最近に興味のある法律事務所の就活プログラムに参加しつつ、それ以外の時間は学業に精進しております。インターンシップで実務家の話を聞くとモチベーションも湧いてきますし、勉強も捗ります。最近特にM&Aと事業再生に興味があり、会社法と倒産法(破産法、民事再生法、会社更生法など)の勉強に力を入れております。

来週もインターンシップが1つ入っているのですが、今まで経験した分野とはまた違う分野を専門とする事務所なのでワクワクしています。たくさん勉強してきます。



11月中に豊島区から高尾山まで運転しました。
高尾山セブンイレブン駐車場の記念撮影

キン エキグン

金 奕群 (中国)

早稲田大学大学院 商学研究科
商学専攻 博士2年

「初心者です」

日本の自動車免許証を取得してからすでに1年が経ちました(中国の免許は2011年から持っていますが…)。初心者マークを付けなくても、法律的に大丈夫となりますが、ペーパードライバーのままであるため、今も、私が走っている車には若葉マークが付いています。

勉強面については、博士論文の章となるジャーナル論文を昨年いくつか発表しました。いよいよ、博論自体の構成を考えないといけない時期となっています。先輩達の博論を参考にしながら、先生達とも相談しています。本当にあっという間に博士3年生になりましたが、博論を作成するのも初めてであるため、初心者です。



調査対象者である二人のお婆さんと自撮り
ヒョウ ガンヒ

馮 岩飛 (中国)

北海道大学大学院

国際広報メディア観光研究科 博士3年

「現地調査の心得」

自分の研究のため、よく中国の農村で現地調査を行います。調査する時は、自分と調査対象者、お互いの位置づけが調査の結果に大きく影響すると常に感じています。私が目指しているのは、できるだけ自分の存在を小さくし、相手への負担をかけずに接することです。なぜかと言いますと、いきなりインタビューされると緊張で話がうまく進まなかったり、拒否感を示したりする方がたくさんいらっしゃるからです。

ですから、自分の調査対象者と仲良くなるのが先です。キリスト教信者である2人のお婆さんと一緒に歌を歌ったこともあります。現地調査の大変さを身にしみて感じながら研究を頑張っています。



地元で知り合った観光者達との撮影です
(本人左から2番目)

ヨウ ジョ
楊 茹 (中国)

九州大学大学院 生物資源環境科学府

環境農学専攻 修士2年

「架け橋になっているでしょう～」

昨年12月に、研究室が主催した国際シンポジウムを無事に開催することができました。要旨集の作成、各国の研究者とのやり取り、現地への案内など色々任されたり、自分の研究結果を発表したりするなど、非常にいい経験で勉強になりました。

また、お正月には一時帰国をしました。地元では様々な環境問題を抱えており、自分の研究の意義を改めて認識しました。中国に旅行にきた日本人に出会い、熱心に案内したり、手伝ったりするなどして、彼らの中にある中国人への印象を変えることができました。こういう細やかな心配りが、日中の架け橋になっているでしょう～（達成感を感じ、誇りを持ちました）。



バレーボール試合記念写真 (本人左から2番目)

サイ レイカ
崔 麗華 (中国)

京都大学大学院 農学研究科

森林科学専攻 博士1年

「初試合」

私は、自分が一番好きなバレーボールと共に2019年を過ごしました。日本に来てまもなく四年次になりますが、昨年末、日本で初めてバレーボールの試合に参加しました。チームメンバーは学生も社会人もおり、国籍も様々です。昨年からチームに入り、バレーボールをするのが大きな楽しみでしたが、年末に試合にも参加できて最高でした。気になる結果は、残念ながら5位でした！他のチームが本当に強くて、ほとんど負けてしまいました。練習不足を反省し、今年はいっとも頑張ろうと思っています。



川沿いの散歩

イム ウヒョン
林 佑炫 (韓国)

京都大学大学院 理学研究科

物理学・宇宙物理学専攻 修士2年

「修士論文を書いています」

最近、卒業にむけて修士論文を書いています。2年間の研究を振り返ると、新しい分野の勉強で最初は戸惑っていましたが、興味深い研究に触れることもできました。また、学会にも数回参加できて、様々な面で成長できたと思っています。

京都での生活も気に入っています。身近に自然があるこの環境が好きで、鴨川の川沿いを歩くと、とてもリフレッシュできます。

この調子で、論文の作成と論文発表を最後まで頑張りたいと思います。



札幌手稲オリンピックスキー場

オウ カネイ

王 佳寧 (中国)

北海道大学大学院 教育研究科
教育行政学専攻 博士1年

「留学生スキーインストラクターを目指している」

いよいよ東京2020オリンピック年を迎えました。暑さ対策として札幌が1つの開催都市となり、北大も大会に「出場」します（マラソンは北大キャンパスを通過）。スポーツと言えば、北海道は世界でも有数のスノーリゾート地であり、毎年世界中から数多くのスキーヤーやスノーボーダーが訪れています。そんな海外からの観光客にスキーを満喫してもらうために、北海道スキー連盟等が、留学生スキーインストラクター育成プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトへの参加によって、自分のスキーレベルをアップし、他の国からの留学生との交流も深め、北海道でのスキーの楽しさを世界中にアピールしたいです。



ストレッチ中の姿

パク ユンシク

朴 胤植 (韓国)

東京工業大学大学院 理工学研究科
化学工学専攻 博士3年

「健康管理をしながら研究を頑張っています！」

私は、最近研究室の中で研究ばかりで、身体を動かすことが前より少なくなり、体力が落ちたことを感じていました。そこで、学校の近くにあるジムに週3回通って、運動して体調を管理しています。疲労回復と体調維持に効果があり、研究活動と日常生活のバランスを守るのに良です。ストレスを受けたり、没頭するのが難しい時、運動をするとりフレッシュもできるし、良い緊張感を維持することができるので、皆さんにもお勧めします。



学会後の研究室旅行にて
(本人2列目左)

ソウ カリン

曾 嘉林 (中国)

九州大学大学院 総合理工学府
物質理工学専攻 修士2年

「宮崎にてチキン南蛮ざんまい」

昨年11月、学会運営と研究室旅行を兼ねて、宮崎県に行きました。今まで常に参加者として学会に参加していましたが、今回は初めてスタッフとして参加したので、学会運営の難しさを知りました。いろんな困難がありましたが、学会事務局の先生と学生、地元の方々の協力で、無事に成功を収めることができました。学会以外で最も印象深いのは、宮崎のチキン南蛮です。宮崎の名物として、空港や駅、ホテルの朝食バイキングから学会の懇親会まで、いつでもどこでも出されていました。研究とチキン南蛮漬けの3日間でした。



家族旅行中の自撮りです。(本人左)

チャンポンバックディー・インオン (タイ)

東海大学大学院 工学研究科
医学生体工学専攻 博士2年

「楽しい冬休みを過ごせました」

昨年12月に博士課程の入試試験を受けました。冬休みには、リフレッシュしにタイに帰省しました。家族と会えるのはほぼ1年ぶり、お正月を兄妹と過ごせるのは何年かぶりでした。家族といろいろ話もでき、良い思い出もたくさんできました。さらに、何年間に会っていなかった友達にもたくさん会えてとても嬉しかったです。

これから、修士論文と発表を頑張って完成させます！



ユネスコの同僚とのランチ会（本人左から3番目）
シュ テンキョウ

朱 天嬌（中国）

東京大学大学院 教育学研究科
総合教育科学専攻 修士2年

「ユネスコバンコク事務局でインターンシップしています」

去年の11月から、ユネスコバンコク事務局でインターンシップを始めました。3月の卒業までの4ヵ月間なのですが、ずっと憧れていたバンコク生活が体験できてとても楽しい毎日を送っています。ユネスコで携わっている仕事は、移民の子供の教育や識字率向上のためのプロジェクトなのですが、自分の些細な力がこんなにも影響力の大きいことにつながっていくんだと、毎日ワクワクしながら仕事をしています。さらに、インターンシップの合間に日本に戻って、無事に修士論文を提出しました。これで、卒業に向けて着実に一步を踏み出しました！卒業までの時間も残りわずかなので、インターンシップを一生懸命やりながら、タイでの生活も満喫していきたいと思います。



お姉さん達と姪（本人右端）

タパマガル プナム（ネパール）

東京電機大学
理工学部 学部3年

「初司会」

2019年もあっという間に終わってしまいました。

皆さん、2020年の抱負はありますか？ 新年になれば人生が変わるだけではありません。色々なことで悩み、できなかったこと、解決したこともありました。また、全く後悔のない瞬間と経験もありました。本当に感謝しています。実験や専門勉強でとても忙しい日々でした。去年は、初めて東松山市国際交流協会主催国際交流パーティーの司会をマレーシアの友人と2人で務めました。本当に素晴らしい経験でした。

お正月には、家族と一緒に初めて富士山を見にいきました。久しぶりに良い時間を過ごしました。



お母さん、弟と日本でのホームステイ家族との集合写真

ユルダジェフ・サドラ・ヌルラエビッチ
(ウズベキスタン)

名古屋大学大学院 国際開発研究科
国際協力専攻 博士 3年

「忙しくて楽しい1年」

2019年は、これまでの学生生活と違い、私にとって面白い年だったと感じました。学業やインターンシップ、そして日本・ウズベキスタン間の通訳・翻訳などの様々な活動で経験を積みました。忙しくて中々家族と一緒に時間を過ごすことができませんでしたが、12月に日本・ウズベキスタンアカデミックフォーラムでの研究発表が終わると直ぐに、家族とウズベクの会の忘年会に向かい、ギリギリ間に合いました。

竜の子(OB・OG)近況報告



台湾出張に行った時、バナナ園場で撮った写真。

唐 天利 (中国)

明治大学卒業

「仕事に楽しさを感じられています」

皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。

社会人になって2年近く経ちました。入社前の期待と入社後の実態に大きなギャップがあって1年目は大変でしたが、昨年後半に部署異動して、ようやく自分がやりたい仕事に就くことができました。現在は海外事業に関わる業務を担当しています。今年から海外の出張が増えていくので、時間と健康をしっかりと管理しながら、さらに努力していきたいです。



Asian Circular Economy Leadership Academyにて (本人中央)

レ ティ テュ ヴァン
(ベトナム)

九州大学卒業

「ベトナムにおける持続可能開発プロジェクトで仕事をしています」

ベトナムに戻った後、私は、有機農業、再生可能エネルギー、環境に優しい生産など持続可能開発に関連するプロジェクトを担当し、ハノイにおけるCCS (Center for Creativity and Sustainability) と呼ばれる非政府組織で仕事をしました。

2018年5月には、CCSと協力しているRARE国際組織の保全キャンペンプロジェクト (Campaigning for Conservation) のベトナムにおける支配人に任命されました。また、タイのチュラロンコン大学で、若いアジアの指導者向けの欧州連合 (EU) の循環経済 (circular economy) に関するトレーニングコースを選択し、修了したばかりです。

私の今日のキャリアと成果につながる基盤を築いてくれた竜の子財団に感謝いたします。



プロジェクト交流会にご出席いただいた
鳩山先生との記念撮影

魏 登輝 (中国)

東京外国語大学卒業

「2020年をより濃厚な一年に」

令和最初のお正月を皆さんはどのように過ごされましたか？実は私は「スマートアグリ」というプロジェクトに取り組んでいました。簡単に言いますと、日本の先進的で高生産効率の農業システムを、実験的に中国に展開するものです。それも、単に生産設備の持ち込みではなく、展開先に合った初期プランニングや、生産管理指導、そして定期的なメンテナンスと技術的フォローも含まれた一貫したものになります。

というわけで、お正月休みこそなくなりましたが、自分にとっては充実した楽しいお正月になりました。



母と高尾山薬王院で撮った写真です (本人左)

マハウオンウィリヤ スタシニー
(タイ)

東海大学卒業

「今年も気合で頑張ります！」

オリンピックイヤーに突入しましたが、皆さんいかがお過ごしですか？私はすっかり仕事にも慣れてきましたが、東京の寒さにはいつまで経っても慣れる気がしないです。そんな寒い中、お正月は家族で高尾山に登りました。あいにく曇りで富士山は見えませんでした。久々に家族と年末年始を過ごせてとても楽しかったです。

大学院の入試は2月からスタート。油断せず、無事受かりたいと思います！

SPECIAL REPORT Ⅲ

● ウズベキスタンのお正月はいつだろう？ ●

お正月と言えば、新年のはじめの月、つまり「1月」だと思ふ人は少なくないでしょう。これは、間違いではありませんが、必ずしも正しいとは言えないです。お正月は、各国により、様々な文化や歴史があります。

昔から手工芸産業や農産業が盛んであった中央アジアの国々では、寒い冬季の終わり、「初春」の到来と畑での新しい季節の始まりをお正月として祝ってきたのです。お祝いを『ナブルーズ』のお祭りと呼びますが、これは「新日」の意味を持ち、日本のお正月のように「年明け」、「年初」又は「初春」の意味合いになります。「初春」の意味では、日本及びウズベキスタン両国でもちょうどその時期に春の訪れのお祝いをしますので、異なる文化の共通点ではないかと思われます。

『ナブルーズ』のお祭りは、毎年3月21日頃に行われ、ゾロアスター教が中央アジアに拡大した頃から現在まで、長い歴史があります。ゾロアスター教の次に、紀元後8世紀からはイスラム教が広がり、太陰暦の使われ始めてからも、お正月は同じく「初春」のままでした。その後、中央アジアへのロシア人の来訪によって太陽暦が使われ始めたころから現在にかけて、お正月が新年の「1月」であるようになりました。

伝統的なお祭りの『ナブルーズ』は、春の到来をお祝いするものですが、現代では1月がお正月なので、「お正月」が2回来るように感じられます。



ナブルーズ祭り

ナブルーズのお祭りには、上の写真のように、皆が家族で大きな山や公園に集まり、男女に分かれて限定された伝統的な服を着ます。男性用の服が『トゥン』や『ドゥッピ』と言い、女性用の服は『アトラス』、『アドラス』や『ドゥッ

ピ』と言います。それらを着て、様々な楽器を演奏したり、歌に合わせて踊ったり、皆で喜び合います。

『ナブルーズ』の料理も長い歴史があり、美味しいだけでなく、「春の到来」の意味を表します。祭りの日は、全国の各地域で、春季の伝統的なおせち料理を作ります。おせち料理の材料は、野菜や小麦粉などがメインで、その中にハーブが入ります。中でも、スマリャク、ハリム、クックサモサや各地域の伝統的な料理などが、お祝いのテーブルのハイライトになります。



ナブルーズのおせち料理：スマリャク（真ん中）、ノリヌ（左上）、クックサモサ（右下）、伝統的なパン（左下）

おせち料理の中では、特にスマリャクとその宴会がユニークです。

スマリャクの準備では、最初に小麦が一定期間栽培されます。その小麦から作られた小麦のジュースに、少量の油を加えた後、大釜に入れます。そこに小麦粉を入れ、24時間も煮て、ようやくスマリャクができ上がります。珍しい



一定期間栽培された小麦



「スマリャク」を作る宴会

のが、スマリャクを煮る際に宴会が行われることです。一人一人が「新年」が良い年になるようお祝いをし、大釜の中に石を入れながら煮るのが伝統です。スマリャクはほのかな甘味があり、普段は美味しいパンと一緒に食べます。

『ナブルーズ』の祭りは、町村の皆が集合できるような広い場所で実施し、その近くの大きいフィールドで伝統的なスポーツの大会が行われます。



「ナブルーズ」の祭りやスポーツ大会のための集合場所

数多くのスポーツの中で、『クラッシュ』と『クプカリ』が有名です。『クラッシュ』とは柔道によく似ているスポーツです。ウズベキスタンの古来より伝わる国民の格



クラッシュ（着衣式レスリング）

闘技で、着衣式レスリングのことです。

『クプカリ』とは、中央アジアの伝統的な騎馬競技で、各国により形式が違います。ウズベキスタンの『クプカリ』は、馬に乗った人がたくさん山に集まり、その中に、死んだ羊やヤギを一匹放り込み、その羊やヤギを激しく奪い合って、目的地点に持って来られた人が勝ち、という騎馬競技です。



クプカリの始まる前



クプカリ（騎馬競技）

1月のお正月は、正に米国のお正月に似ています。どちらかといえば、12月31日の「New Year's Eve」の方が1月1日の「New Year's Day」より盛り上がります。その理由は、新年を迎えるために行われる行事が12月31日だからです。当日は、家族でおせち料理を作ったり、「New Year's Cake」を食べながら有名な番組をみたり、皆で集まり面白い話をしながら新しい年の到来を今か今と真夜中まで待ちます。夜中12になると、全国で花火大会が行われ、皆が横にいる家族や友人たちと新年が良い年になるようにお祝いします。

よって、ウズベキスタンではお正月が2回もあると考えて間違いはないでしょう！！

編集後記

委員長 一橋大学法科大学院 ^{キム ジェウク} 金 宰煜

今回編集委員長として制作に関わり、交流会レポートを担当させていただきました。会誌の制作に関わるのは今回が初めてでしたが、編集委員長として参加することができて嬉しかったです。分からないことばかりでしたが、先輩方からアドバイスをいただきなんとか乗り越えることができました。編集委員は数名しかいませんが、奨学生全員が協力してくれたおかげで編集委員たちがスムーズに作業を進めることができたと思います。協力して下さった方々に感謝の言葉を申し上げます。

副委員長 東京工業大学大学院 ^{パク ユンシク} 朴 胤植

この度「SPECIAL REPORT II 韓国のお正月」を担当し、編集副委員長を務めさせていただきました。皆さまのおかげで「竜の子ニュースレター第25号」を楽しく編集することができました。他の編集委員と話し合いながら文章を修正し、編集を終えました。日本語の作文についての勉強にもなりました。編集委員の皆さん～お疲れ様でした！

委員 早稲田大学大学院 ^{キン エキダン} 金 奕群

この度、会報誌第25号の編集委員として、SPECIAL REPORT Iを担当させていただきました。今回のテーマ（Eスポーツ）は、学業とだいぶ離れています。しかし、文章を作成する際に、Eスポーツ産業の発展についていろいろな資料を調べて、新しい情報を多く得ることができました。また、編集会議において、個々の原稿の修正案について皆様とお話できてとても楽しかったです。ありがとうございます。

委員 京都大学大学院 ^{イム ウヒヨン} 林 佑炫

この度、竜の子ニュースレター第25号の編集委員として参加させていただきました。私は、竜の子奨学生とOBOGの近況報告の部分を担当しました。編集の中で、多様な背景をもつ竜の子奨学生・OBOGの生活や経験の幅広さに接して、視野が広がった気がします。会誌などの編集に参加した経験は少ないのですが、編集委員の皆さんの協力のおかげで楽しく編集ができました。

委員 名古屋大学大学院 ユルダシェブ サドラ

この度は、竜の子奨学生会報誌第25号のSPECIAL REPORT IIIの編集を担当させていただきました。あまりにも知られていない中央アジアのお正月祭りや文化についてご紹介させていただきました。編集の際は、自国のお正月の歴史や面白いところを外からの視点で見て、今まで私自身も気付かなかった様々な感動的なところに気付き、とても楽しい経験になりました。編集委員の皆さんのおかげで会報誌第25号を完成できて、とても嬉しかったです。



第3回編集会議後にて



第2回編集会議にて



第1回編集会議にて

「その夢はきっと世界を変えていく」
夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず